

16世紀後半のイングランドにおける楽譜出版と創作

—楽譜集のタイトル・ページに視点を置いて—

能登原 由 美

(本講座大学院博士課程後期在学)

1. 問題の提起と本論文の視点

イングランドにおいて活版印刷術を用いた楽譜の印刷・出版活動が盛んになるのは、16世紀最後の10年余りのことである。16世紀初頭に活字を用いて印刷された最初の多声楽曲集がイタリアで登場してから、大陸諸国では16世紀前半にはすでに年に数十冊もの楽譜集が印刷・出版されていたが、イングランドでは1550年から1587年までの37年間でも僅か6冊の楽譜集¹しか印刷・出版されなかった(表1)。しかしながら、1588年以降、印刷・出版される楽譜集の数は急増し、ほぼ毎年、数冊の楽譜集が出版されるようになる。

このイングランドにおける楽譜の印刷・出版活動の隆盛に大きな影響力を持ったのは、王室礼拝堂の音楽家であったウィリアム・バード William Byrd (1540頃～1623)²であった。彼は、1575年に、同じく王室礼拝堂音楽家のトマス・タリス Thomas Tallis [Tallys, Talles] (1505頃～1585) と共同で、楽譜の印刷・出版に関する独占的権利³を女王から与えられた。この権利の有効期間は21年と定められていたが、タリスは1585年に死去した。従って、バードが1596年までイングランドにおける楽譜の印刷・出版活動を手中に収めていたことになる⁴。その間、彼が認可を与えて出版された印刷楽譜集の数は、バード自身の楽譜集7冊を含め、11年間で18冊にも及んだ。一方、96年にバードの独占権の期限が終了すると、続いてその権利を取得したのは、同じく王室礼拝堂音楽家のトマス・モーリー Thomas Morley (1557/8～1602)であった。1598年9月のことである。有効期間は21年と定められていたが彼自身が1602年に死去したため、モーリーの場合、権利の保有期間は僅か4年余りのことであった。それでも彼が4年間で出版を認可した楽譜集の数は13冊にも及び、このうち彼自身の楽譜集も3冊含まれている。

このように、楽譜の印刷・出版活動が活発になり始めた16世紀末のイングランドで楽譜の印刷・出版活動の中心にいたのは、バードやモーリーという、当代随一の作曲家であった。このことは、モーリー以後の楽譜出版事情を考えると興味深い。彼の死後、楽譜の印刷・出版に関する権利は特定の個人に委ねられず、イングランドにおける楽譜の印刷・出版活動は、印刷家や出版人の采配の下で行なわれるようになったのである。つまり、バードやモーリーのように、特定の作曲家がイングランド全土における楽譜の印刷・出版活動を統制していた16世紀末の状況は、むしろ異例であったと言える。

作曲家が印刷・出版活動に関する全ての権限を有していた事実は、イングランドにおける楽譜の印刷・出版史の観点において興味深いと同時に、作曲家研究の観点においても興味深い。16世紀終わりの作曲家

が楽譜出版という商業的活動をいかに捉え、また創作活動に反映させていったかという問題を投げかける。

しかしながら、これまでの研究⁶において、16世紀後半のイングランドにおける作曲家の創作活動と楽譜の印刷・出版活動との関係が考察されたことはほとんどない。それどころか、バードやモーリーといった作曲家がどの程度まで実際の楽譜の印刷・出版活動に関与していたのか、あるいは当時の作曲家が楽譜の印刷・出版活動にどの程度まで関心を持っていたのかといった問題さえ、いまだ明白となっていない。出版活動は、それまで一般的であった手写本による特定少数への伝播から不特定多数⁷へと、楽譜伝播に大きな変化をもたらしたものである⁸。それは、当時の音楽受容に影響を与えたばかりではなく、ジャンルや歌詞の選択といった作曲家の創作活動にも影響を与えたものと推測できる。一方で、出版活動は商業的な営みであることから、王室や教会、貴族といった、パトロンへの依存によって成立していた当時の作曲家の生計にも変化をもたらすものであったと考えられる。16世紀後半のイングランドにおける音楽創作のあり方や音楽そのものをより深く捉えるためにも、当時の創作活動を楽譜の印刷・出版活動との関わりにおいて追求する必要があるのではないだろうか。

本論文では、16世紀後半のイングランドで出版された印刷楽譜集のタイトル・ページを分析することによって、作曲家と楽譜の印刷・出版活動との関わりを考察する。タイトル・ページは、当時出版された印刷楽譜集の大半が伴っているもので、残された資料がほとんどない16世紀後半の楽譜の印刷・出版活動を知る上では貴重な資料となる。本論の中でも述べるように、宣伝としても利用されていた16世紀後半の書籍のタイトル・ページは、楽譜集の中で商業的な機能を最も明白に担った部分であったと言える。さらに、楽譜本体や一連の序文⁹とは異なり、作曲家の関与なしでも作成され得る部分であった。逆に言えば、作曲家が関与する必要のない商業的な役割を担ったタイトル・ページに、いかに作曲家が関与したのかを見ることによって、出版活動に対する作曲家の姿勢を明らかにすることができるのである。

2. タイトル・ページとは何か ～16世紀後半のタイトル・ページの役割～

タイトル・ページは、印刷楽譜集のみならずあらゆる書籍において、手写本の時代にはほとんどみられなかったものである¹⁰。タイトル・ページが印刷書籍において誕生したきっかけは、作者の美的感覚や作品観によるものではなく、書籍の印刷が浸透し始めた当初の印刷における技術的な問題に遡ると考えられている。15、16世紀の印刷書籍は、印刷されてから製本するまでに時には数年にも及ぶ時間的隔たりがあったとみられている。製本作業はそれ自体で新たなコストを必要とするのみならず、さらにより容量が増えるため輸送にもより大きな負担となった。従って、印刷された用紙が製本されるのは、実際に書籍が販売される時点、あるいは購入される時点であった¹¹。

タイトル・ページは、このように未製本の状態で長期にわたって保管されたり、あるいは輸送されたりしていた印刷物を保護するために付けられ始めたものと考えられる。タイトルの入った紙ではなく、何も印刷されていない白紙の紙が、15世紀になって書籍の最初に置かれるようになった。それは、用紙を破損や汚れから守るためのものであると同時に、他の印刷物との混在を避ける役割を果たしたのであろう。巻頭に白紙を置いた印刷書籍は、15世紀後半に入って急増した(M. Smith 2000: 18.)。しかしながら、この

頃から新たにタイトルや著者名の書かれた用紙も印刷書籍の巻頭に現れ始め、15世紀の終わりにはそのような印刷書籍の数は、白紙が置かれた書籍の数をはるかに上回った (Ibid., 59.)。恐らく、タイトルを付加することによって、用紙を保護するのみならず各書籍の識別を容易にさせたものとみられている (Ibid., 17.)。

タイトル・ページの役割は、さらに増大する。白紙にタイトルが書かれたばかりではなく、木版画による装飾や、書籍に関する情報が書かれるようになる。その結果、タイトル・ページは書籍の保護や識別といった役割だけではなく、書籍市場において印刷書籍を「宣伝」するための役割も担うことになった¹²。新たに書かれるようになった情報には、印刷家の名前、出版地、あるいは書籍が売られている場所、さらに書籍の概要や特徴、価値などが含まれ、いずれも印刷書籍の「販売」を促進するのに役立つものであった (Ibid., 91-92.)。

このように、タイトル・ページは、印刷から製本までの工程における技術的な問題から印刷家によって必要とされて誕生し、その後、商業的な機能が与えられていったことがわかる。この過程を見る限り、タイトル・ページは本来、作曲家の創作活動に決して必要とされたものではなかったと考えられる。

3. 16世紀後半のイングランドで印刷・出版された楽譜集のタイトル・ページ

16世紀後半にイングランドで出版された印刷楽譜集のうち、バードの3冊のミサ曲集を除くと全ての楽譜集がタイトル・ページを伴っている。すでにこの時期には、タイトル・ページを伴うことは、あらゆる印刷書籍において一般的であったものと推測できる。バードのミサ曲集の場合、カトリック教徒に対する弾圧が厳しくなっていた1590年代にあって、カトリック典礼用の曲集を出版することが非常に危険であったことから、敢えてタイトル・ページが付けられなかったものとみられる。

当時の印刷楽譜集のタイトル・ページは、前述した印刷書籍全般のタイトル・ページと大きな相違はない。すなわち、タイトルや作曲者名、出版年などの文字が、様々な装飾とともに印刷されたものである。表2は、16世紀後半にイングランドで出版された印刷楽譜集のタイトル・ページにみられる装飾の種類や文字の情報をまとめたものである。さらに、タイトル・ページを実際に印刷するのは印刷家であることを考慮し、それぞれの楽譜集を印刷した印刷家の名前も掲載した。表2にも明らかな様に、当時のイングランドにおいて楽譜集を印刷していたのはごく少数の印刷家であった。その理由として、楽譜の印刷・出版独占権によって楽譜を自由に印刷することができなかったことが指摘できるだろう。また、楽譜に関する知識や楽譜用の活字など、楽譜印刷特有の設備や技術が要求されたことも、多くの印刷家を楽譜印刷から遠ざけた原因であったに違いない。

16世紀後半のイングランドで印刷された楽譜集のタイトル・ページには、大きく分けて3つのタイプの装飾が見られる。①タイトル・ページ全体を華麗な版画で飾ったもの (図1)、②ページの縁をフリューロン fleurion と呼ばれる花形模様の縁飾りで覆ったもの (図2)、③中央に小型の版画¹³が印刷されただけのもの (図3)、である。16世紀終わりにイングランドで出版された印刷楽譜集のタイトル・ページは、フリューロンによる装飾を伴うものが最も多い。それらはタイトルなど一連の文字を縁取るだけでなく、

タイトル・ページ全体を縁取っており、さらに、ページの中央には文字とともに、紋章のような小型の版画が付けられることが多い。このフリューロンは様々な形に鑄造された小さな金属の一片を集めることによって無数の模様を作り出すことのできる装飾技法 (Fraenkel 1968: 5) で、一つのパターンしか作り出せない木版画とは異なり、多様な装飾模様のタイトル・ページを手頃に作り出せる手段であったと思われる。

タイトル・ページに印刷される文字情報は、タイトル、作曲者名や編纂者名、あるいは出版年といった必要最小限の情報のほか、表2に示しているような四つの情報があった。すなわち、印刷家に関する情報、売り場に関する情報、楽譜集の内容、そして独占権保有者による認可を表す言葉、である。印刷家に関する情報は、タイトル・ページの最下部に印刷されている、印刷家の名前と印刷された場所、すなわち印刷工房の所在地のことである。印刷家トマス・イースト Thomas East[Easte, Este] (1540頃～1608)のように数多くの楽譜集を印刷し、すでに知名度が高かった印刷家の場合、工房の所在地まで記す必要はなかったようで、彼が手がけた全26冊もの印刷楽譜集のうち、工房の所在地まで記されている例は、僅か3冊である。一方で、イーストの独占的地位が解消される1597年以降に新しく楽譜印刷を始めたピーター・ショートの場合、1600年までに印刷した7冊の楽譜集のうち、最初の6冊までが印刷工房の所在地を記している。当時の印刷書籍が、印刷工房においても販売されていた事実を考えると、このように印刷家の名前ばかりではなく工房の所在地を記すことは、商売上、重要なことであったと思われる。

また、タイトル・ページに売り場に関する情報が印刷されている事実は、当時のタイトル・ページがすでに商業的な役割を果たしていた可能性を裏付けるものと言える。例えば、バードの *Songs of sundrie natures* (1589) の場合、「アルダースゲイト通りにある、黒馬の印のあるイーストの家にて売られる」(図4) という文字が、タイトル・ページの下方部に印刷されている。無論、表2からも明らかのように、当時の印刷楽譜集のタイトル・ページに、売り場に関する情報が印刷されることはそれほど一般的ではない。16世紀後半に印刷・出版された44冊の印刷楽譜集のうち、売り場に関する情報を印刷しているのは10例と、全体の四分の一に満たない。

しかしながら、16世紀終わりの印刷楽譜集に付けられたタイトル・ページの商業的な役割は、タイトル・ページの中に「楽譜集の内容」が印刷されている事実にも表れている。但し、ここで述べる「楽譜集の内容」は、「タイトル」と重複する部分が多く、その区別が難しい。16世紀終わりに至るまでの楽譜集の「タイトル」は、現在のように簡潔な名詞句で独立して表されうるタイトルとは異なり、「楽譜集の内容」を表す部分とともに一つの文章を構成している場合が多いのである。句読法に従って読むなら、「タイトル」は「楽譜集の内容」をも含んだ非常に長いものとなる。すなわち、作曲者名はおろか、楽譜集の音楽的特徴—ジャンル、声部数、楽器の種類—や楽譜集の目的までが記され、まるで楽譜集の内容を宣伝する広告の様相を呈している。例えば、タイによる印刷楽譜集(図5)や、トマス・ホワイソン Thomas Whythorne (1528～1596) による印刷楽譜集(図6)にその特徴が顕著である。実際、この時代のタイトル・ページは、宣伝ビラとして街頭に貼られていたものと考えられている (Mckerrow 1994: 90-91.)。印刷される場所や販売場所に関する情報が記されたのも、このタイトル・ページに与えられた「広告的な」機能ゆえかもしれない。

しかしながら、楽譜集の内容を積極的にアピールしたタイトル・ページは、16世紀の終わりが近づくにつれ減少している。現在のものに近い簡潔なタイトルで示される例が、すでにジョン・コズィン John Cosyn [Cosen, Cosens, Consin] (?~1608/9) による1585年出版の印刷楽譜集にも見られる。1593年に出版されたモーリーの *Canzonets, or little short songs* (図7) 以降は、楽譜集の内容紹介を最小限に留めた簡潔なスタイルのタイトル・ページが一般的となる。これらのタイトル・ページでは、タイトルは短く簡潔で、多くは音楽ジャンルと声部数、あるいは楽器名だけを記し、さらに、作曲者名、印刷家名といった、タイトル・ページには欠かせない情報が印刷されるのみである。

簡潔になったのは内容ばかりではない。1593年のモーリーの印刷楽譜集以降、印刷される装飾も簡素なものが増えている。すなわち、版画による華やかな装飾ではなく、フリーロンによるタイトル・ページ、あるいはフリーロンさえないようなタイトル・ページが増加する。興味深いのは、タイトル・ページに印刷される内容が簡潔である楽譜集が、装飾においても非常に簡素なものだということである。例えば、モーリーによって1595年に出版された *The first booke of canzonets to two voyces* のタイトル・ページ(図2)、トマス・ウィールクス Thomas Weelkes (1576~1623) によって1597年に出版された *Madrigals to 3. 4. 5. & 6. voyces* のタイトル・ページ(図8)がその良い例である。印刷される内容も簡潔であると同時に装飾も簡素なタイトル・ページは、1593年から1600年までに出版された印刷楽譜集26冊のうち16冊あり、16世紀末にはシンプルなタイトル・ページが優勢であったことがわかる。

4. タイトル・ページの特徴と作曲家の関与

4-1. 装飾から

タイトル・ページの作成に作曲家がどの程度関与していたのかについては、当時の楽譜印刷に関する資料が乏しいゆえに明言できない。少なくとも、タイトル・ページの装飾には、印刷家によってその特徴に相違があるのは間違いない。例えば、イーストが印刷した全26冊の印刷楽譜集のうち、華麗な版画付きのタイトル・ページは3冊のみで、残りの23冊はフリーロンを印刷したタイトル・ページである。一方、ショートの場合、7冊のうち5冊までが版画による装飾を施している。イーストの場合はフリーロンによるタイトル・ページが好まれ、ショートの場合は版画によるタイトル・ページが好まれていると言える。しかしながら、ウィリアム・バーリー William Barley (?~1614) のように、版画が2冊、フリーロンが3冊、小さな版画のみが1冊と、特に一定のタイプの装飾に偏っていない印刷家もいる。

しかしながら、作曲者によっても一定の特徴が見られる。例えば、ダウランドの場合、出版した2冊の印刷楽譜集の双方が、ページ全体に広がる華麗な版画的タイトル・ページを持っている(図9)(図10)。一方、モーリーの場合は簡素なタイトル・ページが多い。彼が出版した9冊の印刷楽譜集のうち、版画によって装飾されているのは3冊のみであり、残りの6冊は、フリーロンによる装飾である。またウィールクスの3冊の印刷楽譜集も全て、フリーロンによる簡素なタイトル・ページを持つ。さらにより簡素なタイトル・ページばかりを持っているのが、アントニー・ホルボーン Antony [Anthony] Holborne (?~1602) やマイケル・キャヴェンディッシュ Michael Cavendish (1565頃~1628) による印刷楽譜集であ

る。ホルボーンが出版した2冊の印刷楽譜集のタイトル・ページは、いずれも小さな版画が中央に印刷されているだけである(図3)(図11)。

このように、作曲家によってタイトル・ページの装飾に相違があるのは、これらの作曲家がタイトル・ページの作成において、印刷家に対しイニシアチブをとっていたことを表しているのではないだろうか。その証拠に、彼らのタイトル・ページは、対照的な装飾を用いる傾向のあった複数の印刷家たちによって印刷されていた。ダウランドの場合、華麗なタイトル・ページを持つ2冊の楽譜集のうち1冊は、フリーロンによる装飾が多かったイーストによって印刷されている。また、簡素なタイトル・ページばかりを持ったホルボーンの楽譜集の場合、2冊のうち1冊は、華麗な版画による装飾が多かったショートによって印刷されているのである。

4-2. 文字情報から

装飾を見る限り、一部の作曲家は明らかにタイトル・ページの作成に関与していたのではないかとと思われる。印刷された文字情報を見ても、同様の考えが生じる。ホワイソーンンの楽譜集のタイトル・ページは、常に楽譜集の内容に関する情報を満載している。彼の2冊のタイトル・ページの場合、印刷家は異なるけれどもその特徴は共通しており、装飾はフリーロンのみと簡素である代わりに、楽譜集の内容をアピールする情報で満たされている(図6)(図12)。また、ダウランドの場合も、2冊の楽譜集の印刷家は異なるけれども、いずれも楽譜集の内容までが入ったタイトル・ページを作成している。一方、簡素な装飾と共に印刷される情報が少ないタイトル・ページを好んだ作曲家もいる。モーリーがその典型であり、出版した印刷楽譜集9冊のうち、楽譜集の目的など、楽譜集の内容を印刷した例は1599年に出版した *The first booke of consort lessons* のみである。また、モーリーと同じく簡素な装飾を好んだウィールクスの場合も、出版した3冊全てのタイトル・ページが簡潔な情報のみを記している。但し、先にも述べたように、簡素な装飾と簡潔な情報を持ったタイトル・ページのスタイルは、1593年以降増えており、一種の流行であった可能性が指摘できる。それにも関わらず、ダウランドのように華美に装飾されたタイトル・ページを持つ印刷楽譜集ばかりを出版する作曲家がいた事実は、タイトル・ページの印刷において作曲者の嗜好が少なからず反映されていた証拠と言える。

結論

16世紀後半のイングランドで印刷・出版された楽譜集のタイトル・ページは、印刷される装飾の種類や情報を見る限り、作曲家の意図も反映されていたと指摘できる。もちろん、44冊にもものぼる楽譜集の中には、全て印刷家の独断でタイトル・ページが作成された例もあるだろう。特に、バードやモーリーといった独占権を所有する作曲家が印刷・出版を行なう場合と、地方の貴族の住み込み音楽家であった作曲家が印刷・出版を行なう場合とでは、印刷する際の状況も大きく異なっていたものと思われる。重要なことは、タイトル・ページの作成に関与したとみられる作曲家が存在することである。彼らがタイトル・ページを楽譜集の一部、すなわち自らの作品の一部とみなしていたのか、あるいは単なる宣伝ビラとしてみなして

いたのかは、現段階では明確にすることはできないけれども、作曲家がそれまでの創作活動の範疇にはなかったはずの、タイトル・ページの作成に関心を示すようになっていたことは興味深い。さらに、このタイトル・ページの広告的機能を明確に意識している作曲家さえいた。楽譜集の内容を常にタイトル・ページの中でアピールするホワイソーンである¹⁵。ホワイソーンの例は、楽譜の印刷・出版活動が本格化して間もない16世紀終わりのイングランドに、自らの作品を「売る」ことに積極的であった作曲家が存在したことを示すだろう。

このように、16世紀後半のイングランドの作曲家がタイトル・ページの作成に関わったという事実は、出版によって自らの作品が不特定多数の人々に伝播されることを当時の作曲家が認識していたことを表すのではないだろうか。手写本の時代とは比較にならないほど多量の楽譜集が多様な人々に伝播されるようになり、タイトルや作曲者名、内容を明確に示すことで自己の作品を識別するとともに、他の作品との差異を強調することの重要性を、作曲家が見出していたものと考えられる。

〔参考文献〕

一次史料

本論で参照した楽譜集（全て初版）は以下の通り。また、参照した楽譜集の所在を括弧内に記した。略記号については、BL=British Library, OB=Oxford, Bodleian Library, OC=Oxford, Christ Church Library, CU=Cambridge, University Library, RCM=London, Royal College of Music, WS=Washington, Folger Shakespeare Libraryを指す。

1. Alison, Richard. 1599 *The psalmes of David in meter*. (BL, k. 7. F. 10.)
2. Bennet, John. 1599 *Madrigalls to foure voyces*. (BL, k. 3. H. 5.)
3. Byrd, William. 1588 *Psalmes, sonets, and songs of sadnes and pietie*. (BL, k. 2. f. 1.)
4. _____. 1589 *Songs of sundrie natures*. (OC, 489-494.)
5. _____. 1589 *Liber primus sacrarum cantionum quinque vocum*. (OC, 489-494.)
6. _____. 1591 *Liber secundus sacrarum cantionum*. (OC, 489-494.)
7. _____. *c1593 Mass for 4 voyces*. (OC, 489-494.)
8. _____. *c1594 Mass for 5 voyces*. (OC, 489-494.)
9. _____. *c1595 Mass for 3 voyces*. (OC, 489-494.)
10. Byrd, William, and Tallis, Thomas. 1575 *Cantiones quae ab argumento sacrae vocantur*. (OB, Mus. Sch. f. 600-605.)
11. Cavendish, Michael. 1598 *14, ayers in tabletorie to the lute . . . and 8. Madrigalles to 5. Voyces*, (BL, k. 2. i. 20.)
12. Cosyn, John. 1585 *Musicke of six, and five partes*. (OB, Arch. A. g. 21.)
13. Daman, William. 1579 *The psalmes David in English meter*. (BL, k. 4. c. 5.)

14. _____. 1591 *The former booke of the musicke of M. William Damon.* (BL, k. 3. m. 4.)
15. Dowland, John. 1597 *The first booke of songes or ayers of foure partes.* (BL, k. 2. i. 4.)
16. _____. 1600 *The seconde booke of songes and ayres of foure parts.* (BL, k. 2. i. 5.)
17. Est, Thomas. 1592 *The whole of psalmes.* (BL, k. 2. c. 7.)
18. Farmer, John. 1591 *Divers and sundrie waies of two parts in one.* (OB, wood 90.)
19. _____. 1599 *The first set of English madrigals.* (OC, 449-454.)
20. Farnaby, Giles. 1598 *Canzonets to foure voyces, with a song of eight parts.* (BL, k. 8. d. 5.)
21. Holborne, Anthony. 1597 *The citharn schoole.* (CU, Rel. c. 56. 42.)
22. _____. 1599 *Pavans, galliards, almaines and other short aeirs.* (OC, 231-5.)
23. Jones, Robert. 1600 *The first booke of songes and ayres of foure parts.* (WS, STC 14732.)
24. Kirbye, George. 1597 *The first set of English madrigalls.* {OB, Douce MM 361(1)}
25. Morley, Thomas. 1593 *Canzonets, or little short songs to three voyces.* {RCM, I.D. 20(b)}
26. _____. 1594 *Madrigalls to foure voyces newly published.* (BL, k. 3. 1. 12.)
27. _____. 1595 *The firste booke of canzonets to two voyces.* (BL, R. M. 15. e. 2.)
28. _____. 1595 *The firste booke of balletts to five voyces.* (RCM, I. D. 19.)
29. _____. 1597 *Canzonetts or little short aers to five and six voyces.* (BL, k. 3. i. 9.)
30. _____. 1597 *Canzonetts or little short song to four voyces.* {OB, Douce MM 361(6)}
31. _____. 1598 *Madrigals to five voyces.* (BL, k. 3. i. 14.)
32. _____. 1599 *The first booke of consort lessons.* (OB, Douce MM 410)
33. _____. 1600 *The first booke of Ayres.* (WS, STC 18115.5.)
34. Mundy, John. 1594 *Songs and psalmes composed into 3. 4. and 5. Parts.* (OC, 489-494.)
35. Tye, Christopher. 1553 *The Actes of the Apostles.* (BL, k. 4. c. 4.)
36. Watson, Thomas. 1590 *The first sett, of Italian madrigalls Englished.* (BL, k. 3. k. 12.)
37. Weelkes, Thomas. 1597 *Madrigals to 3. 4. 5. and 6. Voyces.* (BL, k. 3. k. 15.)
38. _____. 1598 *Balletts and madrigals to five voyces, with one 6.* (OB, MS. Mus. SCH. E. 453-458.)
39. _____. 1600 *Madrigals of 5. and 6. parts.* (OB, Malone 970)
40. Wilbye, John. 1598 *The first set of English madrigals.* (OB, Malone 972)
41. Whythorne, Thomas. 1571 *Songs of three, fower and fyve voyces.* (BL, k. 4. c. 2.)
42. _____. 1590 *Duos, or songs for two voyces.* (BL, k. 4. c. 3.)
43. Yonge, Nicholas. 1588 *Musica transalpina.* (BL, R. M. 15. e. 2.)
44. _____. 1597 *Musica transalpina, the second booke of madrigalles.* (BL, k. 15. e. 2.)

二次文献

1. Agee, Richard J. 1986 "A Venetian Music Printing Contract and Edition Size in the Sixteenth Century," *Studi Musicali*. 15: 59-65.
2. Arber, Edward, ed. 1875-94 *A Transcript of the Registers of the Company of Stationers of London ; 1554-1640 A.D.* 5 vols. London.
3. Clulow, Peter 1966 "Publication Dates for Byrd's Latin Masses," *Music and Letters*. 47: 1-9.
4. Dowling Margaret 1932 "The Printing of John Dowland's *Second Booke of Songs or Aryes*," *The Library, forth series*. 12/4: 365-380.
5. フェザー, ジョン 1991 『イギリス出版史』箕輪成男訳 玉川大学出版部(Feather, John 1988 *A History of British Publishing* London: Routledge)
6. Fenlon, Iain and Milsom John. 1984 "'Ruled Paper Imprinted': Music Paper and Patents in Sixteenth-Century England," *Journal of the American Musicological Society*. 37: 139-163.
7. Fenlon, Iain. 1994 *Music, Print and Culture in Early Sixteenth-Century Italy*. London: The British Library.
8. Fraenkel, Gottfried S. 1968 *Decorative music title pages*. New York: Dover Publication, Inc.
9. Harley, John. 1997 *William Byrd : Gentleman of the Chapel Royal*. London: Scolar Press.
10. 井野瀬久美恵編 1994 『イギリス文化史入門』東京：昭和堂
11. Gerald D. Johnson 1989 "William Barley, 'Publisher & Seller of Bookes', 1591-1614," *The Library series* 6. Vol. 11: 10-46
12. Kerman, Joseph. 2000 "William Byrd," *The New Grove Dictionary of Music and Musicians*. 2nd Ed. vol. 4: 714-731.
13. Krummel, Donald W. 1975 *English Music Printing 1553-1700*. London: Bibliographical Society.
14. _____. 1992 *The Literature of Music Bibliography*. Berkeley: Fallen Leaf Press.
15. LeFanu, W. R. 1958-1964 "Thomas Vautroliier, Printer and Bookseller," *Proceedings of the Huguenot Society of London*. 20: 12-25.
16. McKerrow, Ronald B. 1994 *An Introduction to Bibliography for Literary Students*. New Castle: Oak Knoll Press.
17. *Repertoire international des sources musicales*. 1971- Ser. A, Kassel: Barenreiter ; 1960- Ser. B, Munchen : Henle (RISMと略記)
18. Ruff, Lillian M. and Wilson, D. Arnold 1969 "The Madrigal, the Lute Song and Elizabethan Politics," *Past & Present*. 44: 3-51.
19. Smith, Jeremy L. 1997 "The Hidden Editions of Thomas East," *Notes*. 53: 1059-1091.
20. Smith, Margaret M. 2000 *The Title Page*. New Castle: Oak Knoll Press.
21. Steele, Robert. 1903 *The Earliest English Music Printing*. London: Chiswick Press.

-
- ¹ 本論で述べる「楽譜集」には、楽譜付きの宗教書、理論書及び手引書は含まれない。
- ² バードの出生した年については、1622年11月に書かれた遺書において記された年齢から、1542年あるいは43年ではないかとみられてきた。しかしながら、Harley (1997 : 14.) は、この遺書の内容が書かれたのは実際には日付よりも数年前のことであったとし、さらに Star Chamber に提出された1598年10月の日付を持つ自筆の宣誓証言において、バードが自らを58歳であると記していたことから、1539年あるいは40年であったとした。また、Kerman (2000 : 714.) も参照。
- ³ 印刷楽譜の出版活動が本格的に始まった16世紀後半のイングランドでは、あらゆる印刷物の出版は大きく分けて二つの権限の下で行われる仕組みになっていた。すなわち、ステーションャーズ・カンパニー Company of Stationers と呼ばれる印刷業者の組合が持つ権限と、国王から個人に与えられる、ある特定の書籍に関する印刷、出版の独占的権利に基づく権限である。後者の権利はある特定の書籍に関してのみ有効である一方で、前者のそれはあらゆる書籍の印刷、出版に関わるものであった。その結果、イングランドで書籍を印刷、出版する場合には何らかの許可が必要となった。つまり、ある書物の刊行に際してすでに独占権が特定の人物に与えられている場合はその人物の許可を必要とし、独占権が誰にも与えられていない場合は、ステーションャーズ・カンパニーに登録して許可を得る必要があったのである。当時の印刷・出版活動についてはフェザー (1991) を参照。また、ステーションャーズ・カンパニーに登録された、出版物の記録や出版権利授与に関する資料はArber (1875-94) にみることができる。
- ⁴ 1585年にタリスが死去した後、その権利はバードの息子、トマスへと引き継がれたことになっている。しかし、洗礼記録から1576年に生まれたとみられるトマス (Harley 1997 : 51, 57) は、当時まだ9歳であり、実際の権限はバード一人にあったとみてよい。
- ⁵ 当時の出版業は、今日のように印刷、出版、あるいは小売業が完全に分離していたわけではなく、多くの場合、印刷業者は同時に販売業者でもあり、その印刷工房では書籍の販売も行なわれていた。
- ⁶ 活版印刷術による楽譜の印刷・出版活動が始まった16世紀から17世紀にかけての、イングランドにおける楽譜の印刷・出版を扱った代表的な研究には以下のものがある。(Steele 1903) は、この時期の印刷楽譜集を収集し、調査した先駆的な研究である。(Krummel 1975)は、Steele による研究を引き継ぎながら新たな時代設定と調査を行い、より体系的に論述した。しかしながら、これらの研究はいずれも、出版ではなく印刷技術の調査と解明に力点を置いている。この他、楽譜の印刷家や出版人に関する個別的研究もある。(LeFanu 1958-64); (Johnson 1989); (J. Smith 1997) など。
- ⁷ 但し、16世紀後半のイングランドで余暇としての音楽を嗜むことのできる人々は、社会の中でも上層部に限定されており、「不特定多数」も決してあらゆる人々を包含しているわけではない。それでも、ジェントリや富裕商人といった、いわゆる「庶民」の一部が莫大な富を蓄えつつあった16世紀のイングランドにおける楽譜の印刷・出版活動の意義は大きい。すなわち、王族や貴族の間の知己を通じての伝播が中心であった手写本では、新興の富裕層が楽譜を受容できる可能性は低いのが、印刷楽譜ではその可能性がより大きくなるのである。
- ⁸ 印刷楽譜集が手写本と大きく異なる点は、その量産性にある。当時の印刷部数を正確に把握することは

難しいが、確認できる資料から、16世紀終わり頃のおおよその印刷部数を推測することができる。例えば、ジョン・ダウランド John Dowland (1563~1626) の *The seconde booke of songes or ayres* (1600) は、出版当時、1000部印刷された記録が残されている (Dowling 1932)。但し、ダウランドについては、当時、イングランドで最も売れていた作曲家であったため、彼の楽譜集の印刷部数が通常よりも多かったことは予想できるだろう。一方で、16世紀初期のイタリアにおける楽譜印刷文化を考察した Fenlon (1994: 4.) によると、当時印刷される楽譜数は通常500から1000部であったとみられる。実際、16世紀のヴェネツィアにおける楽譜印刷の契約書を調査した研究では、当時の楽譜印刷工房では500部印刷されるのが一般的であったことを明らかにしている (Agee 1986)。従って、ダウランドの例を鑑みても、16世紀後半のイングランドにおける楽譜印刷もほぼ同様のことが言えるだろう。いずれにせよ、同一の楽譜集が生産されることがほとんどない手写本による伝播と比較すると、伝播の規模が大きく異なることは明らかである。

⁹ 当時の楽譜集には、タイトル・ページと楽譜本体の間に様々な序文が挿入されるのが一般的であった。最も多い序文の形態は、献呈文と読者への書簡であり、さらに作曲者の知人、友人などによって書かれた作曲者を称賛する言葉や、作曲者自身によって書かれた音楽を称賛する詩やスローガンなどが挿入されることもあった。

¹⁰ もちろん、タイトル・ページをどのように定義するかによって問題は多少異なる。本論で取り上げているタイトル・ページのように、書籍本文の始まりから完全に区切られ独立したページに書かれたものを「タイトル・ページ」とみなした場合、このようなタイトルのためのページ設定は手写本にはほとんどみられないものであった。McKerrow (1994: 88.) を参照。

¹¹ このように、印刷書籍が未製本の状態で売買されていたことは、書籍の所有者が記した支出記録からも明らかである。これらの支出記録に記されているのは、未製本の書籍の価格、ルブリック（印刷物につける赤い題目）を施す価格、そして製本する価格であった。以上タイトル・ルページの誕生については M. Smith (2000: 15-23.) を参照。

¹² M. Smith (Ibid., 16-17.) はこのように、印刷・出版活動が本格化し始めた15世紀後半から16世紀始めにおける印刷書籍のタイトル・ページの役割として、書籍の保護、識別、さらに宣伝という三つの機能を挙げている。

¹³ 一見、紋章のように見える小型の版画は、特定の印刷家や出版人、あるいは作曲家などの標章である可能性もある。しかしながら、本論が扱う印刷楽譜集に見られたこのような版画には一貫性がなく、この推測を裏付けるにはさらなる調査が必要である。

¹⁴ この数字の中には、タイトル・ページのないバードのミサ曲集は含まれていない。

¹⁵ 例えば、1571年の楽譜集では以下のように述べ、楽譜集をアピールする「…それは様々な種類からなる歌曲集である、すなわち、長い曲、短い曲、歌うのが難しい曲、簡単な曲、そして両者の中間。また厳粛な曲や愉快で陽気な曲。歌手（音楽家ではない）の技術、また聴く人の好みや喜びに合わせてあるゆえ、彼らが満足し好む歌がここに見つかるであろう」(図6参照)。

表1 16世紀後半のイングランドにおける楽譜出版状況

出版年	楽譜集タイトル	作曲者(編纂者)
1553	The Actes of the Apostles	Christopher Tye
1570	Recueil du mellange d'Orlande de Lassus	Orlando di Lasso
1571	Songes of three, fower and fyve voyces	Thomas Whythorne
1575	<i>Cantiones quae ab argumento sacrae vocantur</i>	Thomas Tallis and William Byrd
1579	The psalmes of David in English meter	William Daman
1585	Musicke of six, and fyve partes	John Cosyn
1588	<i>Psalmes, sonets, and songs of sadnes and pietie</i> <i>Musica Transalpina</i>	William Byrd (Nicholas Yonge)
1589	<i>Songs of sundrie natures</i> <i>Liber primus sacrarum cantionum quinque vocum</i>	William Byrd William Byrd
1590	<i>The first sett, of Italian madrigalls Englished</i> <i>Duos, or songs for two voyces</i>	(Thomas Watson) Thomas Whythorne
1591	<i>The former booke of the musicke of M. William Damon</i> <i>Liber secundus sacrarum cantionum</i> <i>Divers and sundrie waies of two prats in one</i>	William Damon (William Swayne) William Byrd John Farmer
1592	<i>The whole of psalmes</i>	(Thomas Est)
1592/3	<i>Mass for 4 voyces</i>	William Byrd
1593	<i>Canzonets, or little short songs to three voyces</i>	Thomas Morley
1593/4	<i>Mass for 3 voyces</i>	William Byrd
1594	<i>Madrigalls to foure voyces</i> <i>Songs and psalmes composed into 3. 4. And 5. Parts</i>	Thomas Morley John Mundy
1594/5	<i>Mass for 5 voyces</i>	William Byrd
1595	<i>The first booke of canzonets to two voyces</i> <i>The first booke of balletts to five voyces</i>	Thomas Morley Thomas Morley
1597	The first booke of songes or ayers of foure partes The citharm schoole The first set of English madrigalls Canzonetts or little short aers to five and six voyces Canzonetts or little short songs to four voyces Madrigals to 3. 4. 5. And 6. Voyces Musica Transalpina, The second of madrigalles	John Dowland Anthony Holborne George Kirbye Thomas Morley (Thomas Morley) Thomas Weelkes (Nicholas Yonge)
1598	14. ayers in tabletorie to the lute...and 8. Madrigalles to 5. Voyces Canzonets to fowre voyces, with a song of eight parts Madrigals to five voyces Balletts and madrigals to five voyces, with one 6 The first set of English madrigals Noave aliquot et ante hac non ita usitate ad duas voces contiones suavissime	Michael Cavendish Giles Farnaby (Thomas Morley) Thomas Weelkes John Wilbye Orlando di Lasso
1599	<i>The psalmes of David in meter</i> <i>Madrigalls to fowre voyces</i> <i>The first set of english madrigals</i> <i>Pavans, galliards, almains and other short aairs</i> <i>The first booke of consort lessons</i>	Richard Alison John Bennet John Farmer Anthony Holborne Thomas Morley
1600	<i>The seconde booke of songes or ayres</i> <i>The first booke of songes and ayres of foure parts</i> <i>The first booke of Ayres</i> <i>Madrigals of 5. And 6. Parts</i>	John Dowland Roberts Jones Thomas Morley Thomas Weelkes
1601	<i>Madrigals to five voyces</i> <i>The seconde booke of songs or ayres</i> <i>The triumphes of Oriana</i> <i>A booke of ayres</i>	Richard Carlton Roberts Jones (Thomas Morley) Philip Rosseter / Thomas Campion

注1) RISM, (Krummel 1975 : 10-33), (Price 1981 : 209-213)を基に能登原が作成。

注2) 宗教書、及び手引書や理論書と見なされるものについては除外している。

注3) 斜体は、バードの楽譜の印刷・出版に関する独占権(期間1575～1596)による認可の下に出版された楽譜集を表わしている。

注4) 1579年、1585年に出版された楽譜集は、それぞれジョン・デイ、リチャード・デイ父子が所有する詩編に関する独占権の下で出版されたもの。

注5) 太字斜体は、モーリーの独占権(期間1598～1602)による認可の下に出版された楽譜集を表している。ただし、1598年に出版された楽譜集は全て、モーリーが独占権を取得した9月以前に出版されたものとみられる。

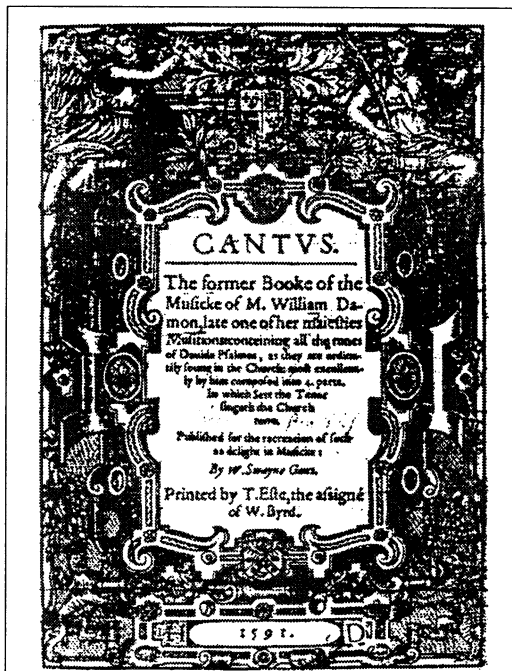
表2 16世紀後半に出版された楽譜集のタイトル・ページ

出版年	楽譜集のタイトル	作曲者(編纂者)	装飾	印刷家	印刷家に関する情報	売り場に関する情報	楽譜集の内容	独占権保有者による認可
1553	The Actes...	Tye	なし	N.Hill(?)	名前と場所	×	○	×
1571	Songs...	Whythorne	フリューロン	J. Day	名前と場所	×	○	×
1575	Cantiones...	Byrd and Tallis	版画	T. Vautrollier	名前と場所	×	×	○
1579	The psalmes...	Damon	版画	Day	名前のみ	×	○	○
1585	Musicke...	Cosyn	不明	J. Wolfe	名前のみ	×	○	○
1588	Psalmes...	Byrd	版画	T. Est	名前のみ	○	○	○
1588	Musica	(Yonge)	フリューロン	Est	名前のみ	×	○	○
1589	Songs...	Byrd	フリューロン	Est	名前のみ	○	○	○
1589	Liber primus...	Byrd	フリューロン	Est	名前のみ	×	×	○
1590	The first sett,...	(Watson)	フリューロン	Est	名前のみ	○	○	○
1590	Duos,...	Whythorne	フリューロン	Est	名前と場所	×	○	○
1591	The former booke...(Swayne)		版画	Est	名前のみ	×	○	○
1591	Liber secundus...	Byrd	フリューロン	Est	名前のみ	×	×	○
1591	Divers...	Farmer			タイトル・ページ喪失			
1592	The whole of psalmes(Est)		版画	Est	名前のみ	○	○	○
1592/3	Mass for 4 voyces	Byrd			タイトル・ページなし			
1593	Canzonets,...	Morley	フリューロン	Est	名前のみ	○	×	○
1593/4	Mass for 5 voyces	Byrd			タイトル・ページなし			
1594	Madrigalls...	Morley	フリューロン	Est	名前のみ	×	×	×
1594	Songs and psalmes	Mundy	フリューロン	Est	名前と場所	×	○	○
1594/5	Mass for 3 voyces	Byrd			タイトル・ページなし			
1595	The first...canzonets	Morley	フリューロン	Est	名前のみ	×	×	×
1595	The first...balletts	Morley	フリューロン	Est	名前のみ	×	×	×
1597	The first booke...	Dowland	版画	P. Short	名前と場所	×	○	×
1597	The ciththarn schoole	Holborne	小版画	Short	名前と場所	×	○	×
1597	The first set...	Kirbye	フリューロン	Est	名前と場所	×	×	×
1597	Canzonetts...aers	Morley	版画	Short	名前と場所	×	×	×
1597	Canzonetts...song	(Morley)	版画	Short	名前と場所	○	×	×
1597	Madrigalls...	Weelkes	フリューロン	Est	名前のみ	×	×	×
1597	Musica transalpina(Yonge)		フリューロン	Est	名前のみ	×	×	×
1598	14, ayers in tabletorie	Cavendish	小版画	Short	名前と場所	×	×	×
1598	Canzonets...	Farnaby	版画	Short	名前と場所	×	×	×
1598	Madrigalls...	(Morley)	フリューロン	Est	名前のみ	×	×	×
1598	Balletts and madrigals	Weelkes	フリューロン	Est	名前のみ	×	×	×
1598	The first set...	Wilbye	フリューロン	Est	名前のみ	×	×	×
1599	The psalmes...	Alison	版画	W. Barley	名前のみ	×	○	○
1599	Madrigalls...	Bennet	フリューロン	Barley	名前と場所	×	×	○
1599	The first set...	Farmer	フリューロン	Barley	名前のみ	○	×	○
1599	Pavans,...	Holborne	小版画	Barley	名前のみ	○	○	○
1599	The first booke...	Morley	版画	Barley	名前と場所	○	○	○
1600	The second booke...	Dowland	版画	Est	名前のみ	×	○	○
1600	The first booke...	Jones	版画	Short	名前のみ	○	○	○
1600	The first booke...	Morley	フリューロン	Barley	名前のみ	○	×	○
1600	Madrigalls...	Weelkes	フリューロン	Est	名前のみ	×	×	○

注1) 楽譜集のタイトルと作曲者(編纂者)の名前、さらに出版年は、すべてのタイトル・ページに含まれている。

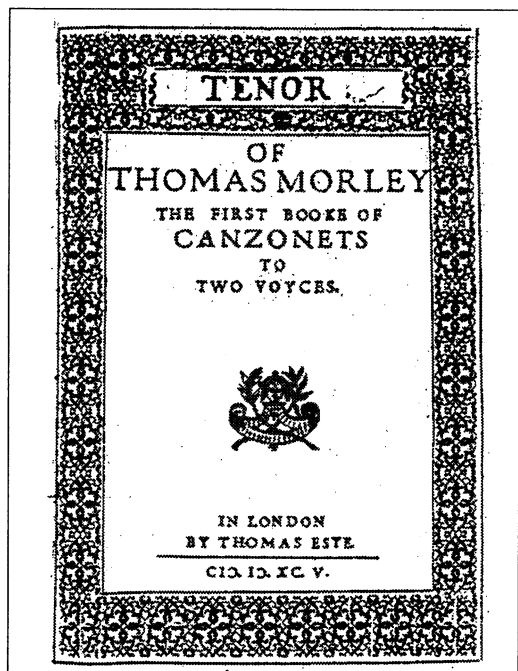
注2) 「楽譜集の内容」とは、楽譜集の目的や性格をなどに関する情報を指す。

注3) ○=あり ×=なし



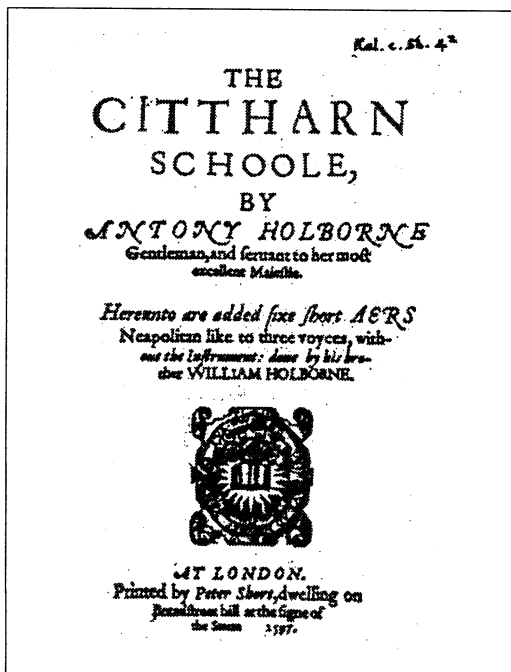
(図1) ダーマン

The former booke of the musicke (1591)
British Library, k.3.m.4.



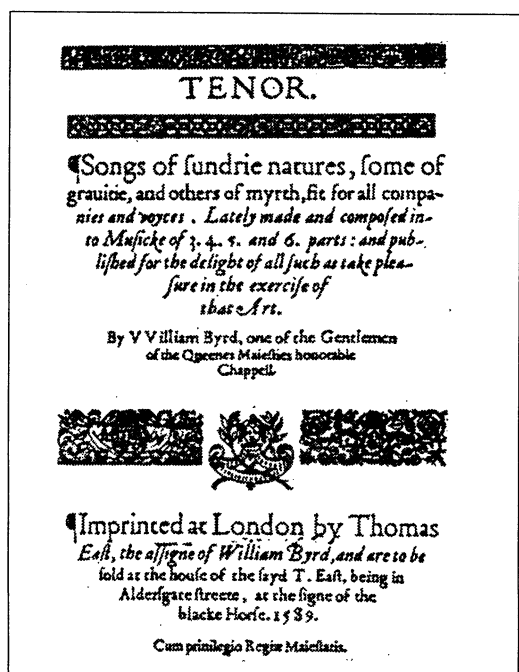
(図2) モーリー

The first booke of canzonets (1595)
British Library, R.M.15.E.2.



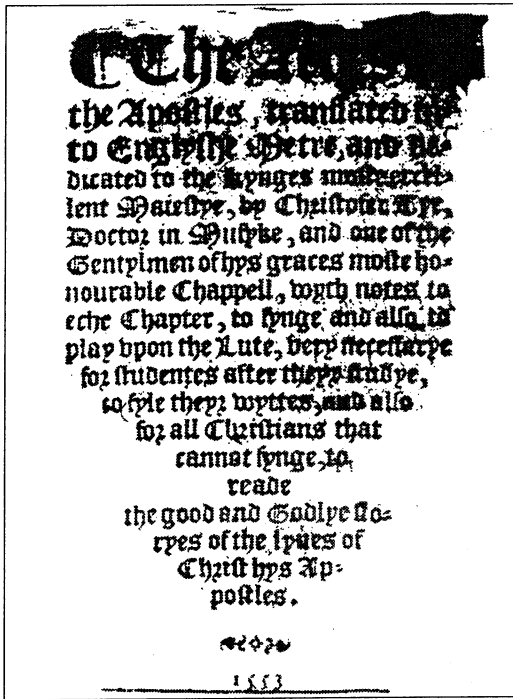
(図3) ホルボーン

The ciththarn schoole (1597)
Cambridge, University Library, Rel.c.56.4²

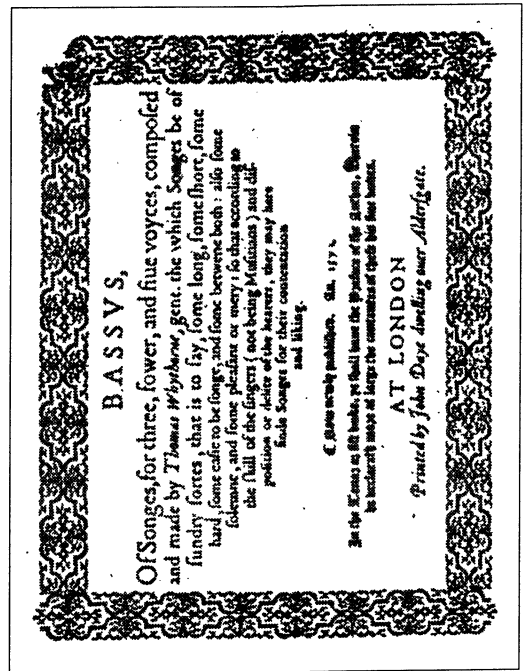


(図4) バード

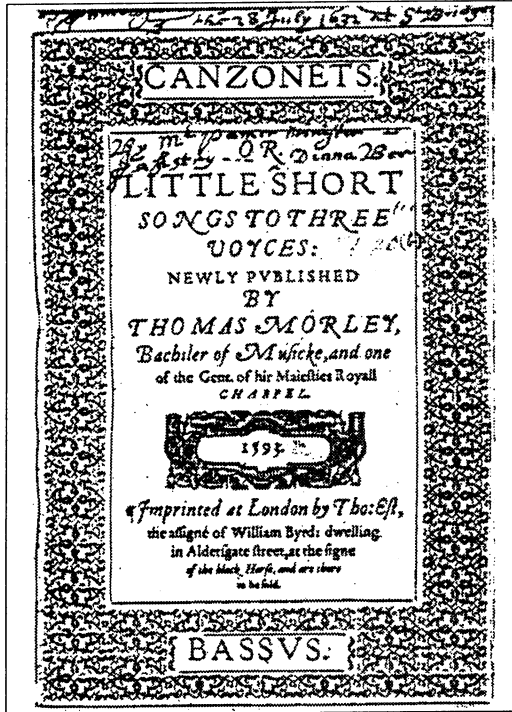
Songs of sundrie natures (1589)
Oxford, Christ Church Library, Mus.489-494.



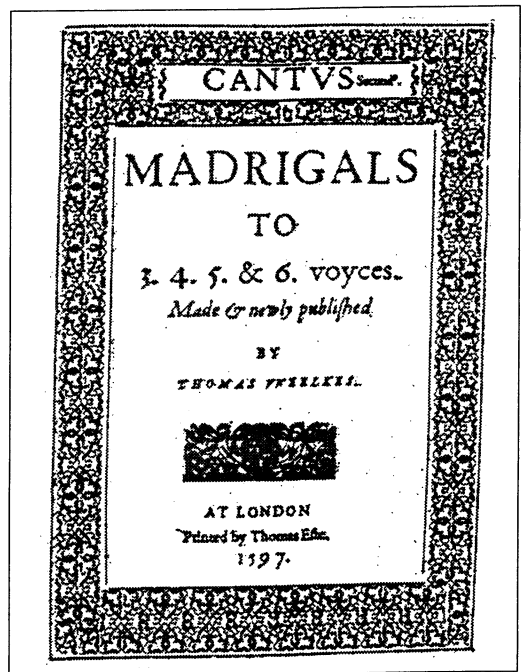
(図5) タイ
The Actes of the apostles (1553)
 British Library, k.4.c.4.



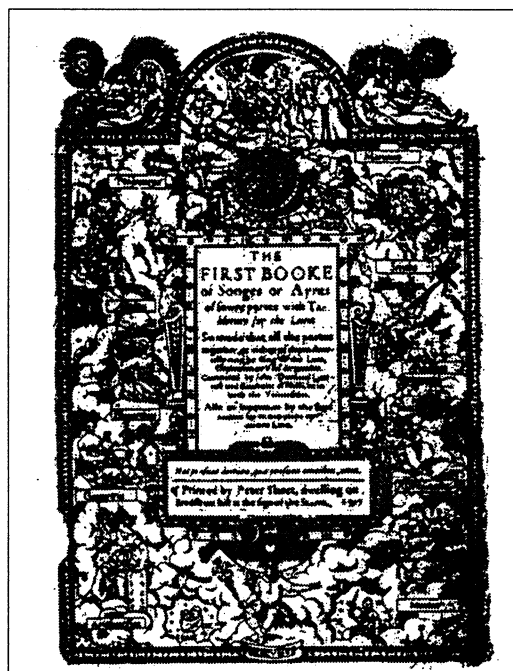
(図6) ホワイソーン
Songs, for three, fower, and fiue voyces (1571)
 British Library, k.4.c.2.



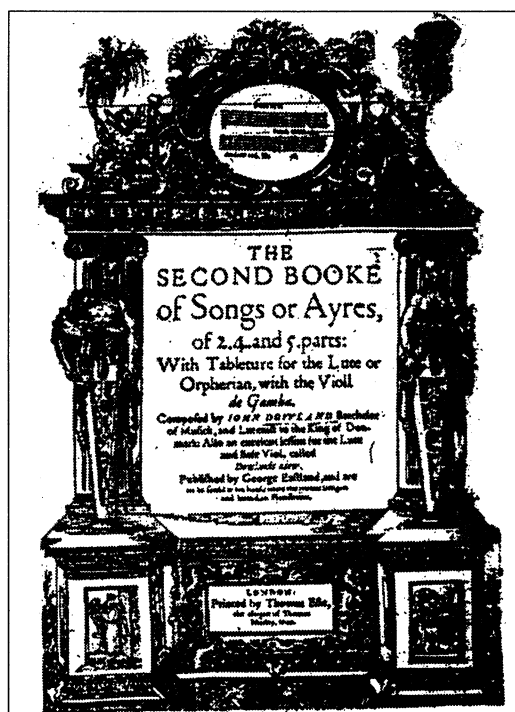
(図7) モーリー
Canzonets, or little short songs (1593)
 Loncon Royal College of Music, I.D.20(b)



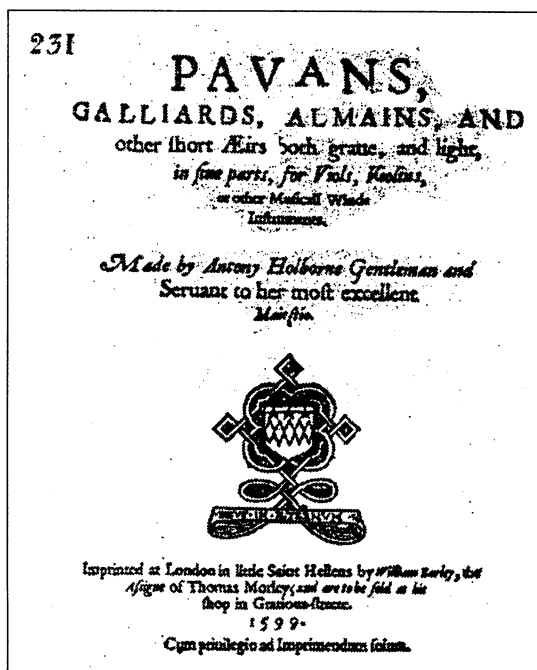
(図8) ウィールクス
Madrigals to 3.4.5.&6.voyces (1597)
 British Library, k.3.k.15.



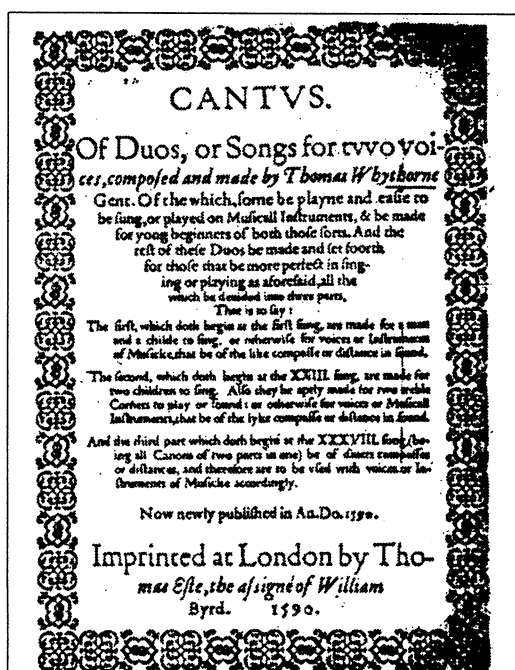
(図9) ダウランド
The first booke of songes or ayres (1597)
 British Library,k.2.i.4.



(図10) ダウランド
The second booke of songs or ayres (1600)
 British Library,k.2.i.5.



(図11) ホルボーン
Pavans, galliards, almains (1599)
 Oxford, Christ Church Library, 231-5.



(図12) ホワイソーン
Duos, or songs for two voices (1590)
 British Library,k.4.c.3.